



## —— 御 挨 拶 ——

東京保護観察所立川支部  
統括保護観察官 鶴田俊男



日野・多摩・稻城地区を所管している統括保護観察官の鶴田俊男と申します。日頃から更生保護に御尽力を賜り、改めて、深くお礼を申し上げます。また、コロナ禍でも活動をお願いし、心苦しく思います。引き続き、感染対策に御留意の上、無理のない活動をお願いいたします。保護司さんの健康が一番大切です。

処遇部門の統括ですので面接を話題にします。面接の基本は、対象者の話を聞くことです。対象者の話にうなずき、内容を繰り返し、要約し、解釈することを繰り返していきます。言葉にすると簡単ですが、実際には対象者の本当の気持ちを受け止めるというのは難しい作業です。ですが、対象者が話を聞いてもらえたと感じる状態が続けば、時間がかかっても、対象者は変わっていきます。毎月の話題がなく面接に困ることがあるという声をよく聞きます。面接は、「今日はいい天気ですね。よく来てくれましたね。」等とペースを合わ

せた後は、「困っていることは何ですか?」「それがどうなったらいいと思いますか?」「そのため、今できることは何ですか?」「では、次回の面接までにそれを実行して、その結果を報告してください。」という形で続けていきます。このようにすると面接が続き物になります。ですが、対象者の中には「困っていることはない。」と言う人もいます。そのような場合には、「次回までに、困っていることを考えてきて下さい。」等と伝えます。あるいは、困ったことがなければ保護観察にはなっていないですから、友達関係、親子関係、仕事関係等、対象者の課題と思われる点をあげて、対象者の課題(困ったこと)であると認めてもらって、面接を繰り返していくことでも良いかと思います。

叱って変わっていれば保護観察にはなっていません。最近は発達障害的な傾向を持つ対象者が増え、扱いに苦慮することが多くなりました。対象者を更生に導くために、今後も一緒に考えさせていただきたいと思います。

## 藍綬褒章を受彰して

稲城分区 粟井 洋子



この度、令和2年秋の叙勲に際しはからずも更生保護功績により藍綬褒章の栄に浴しました。身に余る光栄に感謝いたします。

これもひとえに日野・多摩・稲城地区保護司会の皆様、お力添えをいただきました先輩諸氏と更生保護に携わる関係諸氏皆様方のご支援ご厚情あればこそその栄誉であり、衷心より感謝申し上げる次第です。

伝達式につきましては現下の新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛中とのことでございますが、代えて年頭に関係者の方々が拙宅にご足労いただきまして伝達を賜りました。皆様をご案内しました客間の隣には日頃筝を並べる和室がございます。会長拝命のご挨拶の折にも申ましたが、筝の精神であります「相手を尊重し礼を尽くす」こと。筝に触れますと常にこの精神に立ち返ります。そして、私儀この精神

を大切に、対象者の心の痛みに共感するよう努めながら保護司活動を続けてまいりました初心を思い出しております。

受勲の果報にあざかり、どこか一つの節目を迎えたような安堵感もございます。ですが社会情勢はまだ混乱のさなかにあります。令和2年の刑法犯認知件数、刑法犯少年の検挙人員そして再犯者率の統計は未だ確定しておりませんが、芳しいものではないかもしれません。いずれにしましても更生保護活動はまだまだ続いてまいります。新しい生活様式のもとでは人ととの接触を制限する必要がございますから、まさに人と人との絆が重要な更生保護活動には新しい難しさが加わっております。私儀いち保護司としまして、この状況下で保護司は何をするべきか。安心・安全な社会を実現するために何をすればよいのかを引き続き、皆様と試行錯誤してまいりたく、相変わらぬご鞭撻のほどお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のご健闘はよく存じておりますが、まずは健康第一でございます。ご体調へ差し障ることのないよう、より一層お元気にお過ごしくださいよう併せてお願ひ申し上げます。

## 令和2年度 東京都更生保護事業 顕彰者のご紹介

令和2年度東京更生保護事業関係者の顕彰の栄に浴された当地区の方々を次のとおりご紹介いたします。下表の19名が表彰されました。皆さま誠におめでとうございます。本年度は新型コロナ感染拡大防止の観点から一堂に会しての顕彰式典は中止となり、表彰状等は別途伝達されました。

〈日野・多摩・稲城地区保護司会の被顕彰者芳名簿〉

藍綬褒章（秋）	粟井 洋子
法務大臣表彰	大須賀良子
全国保護司連盟 理事長表彰	松原 一郎、松本ちづ子
関東地方更生保護 委員会委員長表彰	近藤 一美、川井 博之、高橋 勝浩
関東地方保護司 連盟会長表彰	大坪 冬彦、持田 幸子、川久保和壽 飯島 文彦、内山 晃次、廣澤 伸幸
東京保護観察 所長表彰	高木 稔信、池田 教秀
東京都保護司会 連合会会长表彰	出沼恵美子、本多英二郎、伊野 直美 山口 慶隆

## 法務大臣表彰を受彰して

日野分区 大須賀 良子



令和2年9月9日（水）東京・法曹会館において、令和2年度保護司等中央研修会が開催されました。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、例年とは異なり、代表受領者のみの参集で、その様子をインターネット上で生配信する形で行われました。顕彰式典では、各表彰の代表受領者が授与・贈呈される様子を私は配信動画で閲覧させて頂きました。この様に栄誉を浴する事が出来ました事は、私の保護司活動の中で身に余る光栄と同時に、身の引き締まる思いでいっぱいです。長年にわたり続けて来られたのは、親から授かった健康な身体と、家族の協力、そして周囲の方々のご理解とご協力のお陰と感謝しております。今まで沢山の出会いがあり、色々な体験をさせて頂きました。人と関わる事で自分自身の視野が広がり、自分では気づかない部分を引き出してくれる人の出会い等、いつも誰かに支えられています。今後も自己研鑽をし、人として必要とされる存在になれるよう励みたいと思っています。

## 令和2年度 専門部の活動

### 研修部

部長 大須賀 良子

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大で行事開催が難しく、活動が出来ない状況が続きましたが、6月18日に第1回役員会を、7月28日には、第1回部会で今年度の方向性を話し合いました。9月23日には、新任・編入保護司対象研修を開催、出席者は会長・新任保護司4名・関係保護司の合計16名で、当地区保護司会の概要・事業内容などの説明後、質疑応答では新任の方々より活発な質問が出されて、有意義な会議になりました。



2月26日の地域処遇会議は、観察所より提供された「地域のために～保護司として、保護司会の一員として～」の音声教材を基に、保護司制度の意義・今後の保護司活動の在り方等を1部22名・2部12名の参加者と共に学びました。

各会議共、3密を避け、マスク着用・手のアルコール消毒・体温測定を徹底して無事に終わることができ安堵しています。地域別定例研修は、第I・II・III期全て中止になりましたが、第II・III期の研修は「YouTube法務省チャンネル」の動画配信とDVDの貸出により自宅でも視聴(受講)して頂くことが出来、今後の対象者との面接についても参考になりました。

予定していた宿泊研修・SST研修(応募地区多数の為)も残念ながら中止になってしまいましたが、新型コロナウイルス感染が1日もはやく終息されて、保護司の活動も通常に戻り、対象者と対応する際の疑問等を皆様と一緒に検討して、解決して行ける日が来る事を部員一同、祈るばかりです。

### 地域活動部

部長 馬場 房義

今年度は、コロナ禍でサポートセンターが休館し『3回の社会参加活動』と『関係機関との連携活動』が実施出来ませんでした。また『社会貢献活動』も行われませんでした。花壇の植栽や草取り等が行えず、木々は茂り花壇は草だらけになってしまいました。そこで「3蜜」にならずに活動を何とかしたいと考え、まず部員だけで草取りを行いました。次に、コロナ禍でしたが11月7日(土)に植栽を計画しました。部員を含め約30人の保護司の皆さんに参加いただきました。お陰さまで、綺麗な花壇で新年を迎える事が出来ました。有り難うございました。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い致します。



また、研修が活かされた嬉しいがありました。それは、昨年、研修でお招きした機関『若ナビ』の若者総合相談センター社会福祉士森田氏に連絡をとり、サポートセンターに来所頂き、対象者への相談やアドバイスをいただいたことです。今後も対象者と保護司をバックアップして頂ける団体や協力して頂ける施設、協力雇用主等の発掘に努め、対象者の社会復帰に向けての連携活動を深めていきたいと思います。

### 令和2年度「社会を明るくする運動」 民間協力者感謝状受彰者と作文コンテスト受賞者の紹介

#### 民間協力者に対する感謝状受彰者

##### 【東京都推進委員会委員長感謝状】

多摩市立落合中学校  
高蔵院(多摩市)  
吉祥院(多摩市)  
観音寺(多摩市)  
真明寺(多摩市)



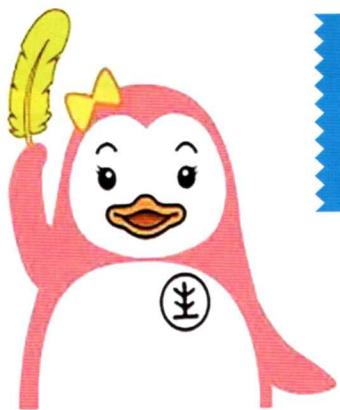
#### 作文コンテスト受賞者

##### 【佳作】

多摩市立落合中学校 2年 石田 青空  
『あいさつでつくる社会』  
多摩市立落合中学校 2年 奥山 千結  
『社会を明るくするために』

##### 【奨励賞(東京保護観察所長感謝状)】

多摩市立落合中学校  
多摩市立青陵中学校  
多摩市立和田中学校



## 特集

# “社会を明るくす

日野・多摩・稲城地区では、多くの市民に本運動の趣旨を理解して頂けるよう、様々な活動を予定していました。しかしながら、コロナ禍のため接触型の広報活動を中止としました。「小・中学生に向けた作文コンテスト」・「懸垂幕や横断幕の掲出」・「児童・生徒への啓発グッズ配布」などの活動を行いましたが、十分な広報活動ができたとはいえないません。そこで、過去に実施した“社会を明るくする運動”を振り返り、70回目の記念といたします。

## 日野分区



平成14年度から、市内8全中学校を順に回り、関連する小学校の児童とともに「子ども いきいきふれあいステージ」を17年間（2巡）実施いたしました。



全8中学校1巡後、第60回社会を明るくする運動の記念イベントとして“ひの煉瓦ホール”にて、市内全中学校の有志による吹奏楽・合唱・前年度社明作文コンテスト優秀賞受賞者の朗読等を行いました。



令和元年度から街頭広報啓発活動と市内8中学校2年生を対象に「非行防止と更生保護について考える」出前授業を実施しました。授業に対して多くの意見が寄せられ、目標を上回る成果を得ることができました。



キティちゃん、ダニエル君も参加。年々参加団体も増え、地域に根付いてきました。



パルテノン

多摩

# る運動”を振り返って



『“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。本運動は、戦後の荒廃した社会の中で非行少年の増加を憂いた東京・銀座の商店街の有志が、更生保護の理念と共に開催した「銀座フェア」が一つの起源であると言われています。昭和26年から法務省が主唱し、毎年多数の御参加を得ながら広がり、今年で記念すべき70回目を迎えるました。』

(「更生保護」令和2年5月号特集より)

## 稻城分区



パルテノン大通りでのパレード行進



第60回社会を明るくする運動（平成22年）から巨人軍・Jリーグ東京ヴェルディの協力により、幅広い層への広報啓発活動が充実（ジャイアンツ球場掲示板でもPR）



階段に大集合



市内7か所で行う活動では、ヴェルディ君、稻城なしのすけの参加により、稻城市あげての取り組みがさらに活発に



平尾バス停での広報啓発活動は、稻城二中の多くの生徒が参加する一大イベントに（地域の方、生徒達に感謝！）

## 更生保護女性会 分区活動報告

**日野・多摩・稻城地区更生保護女性会  
会長 関戸 良**

日野・多摩・稻城地区保護司会の皆様には日頃より更生保護女性会へのご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お目にかかることがなく一年が過ぎてしまいました。この間に退任された方また新しく保護司に着任された方々にご挨拶もできず申し訳ございませんでした。現在2回目の緊急事態宣言が発令中です。会員の皆様の健康を守る事を優先して、更女活動の中止や延期せざるを得ませんでした。

なかでも「社会を明るくする運動」は更女会

にとりまして、大きな活動の一つとなっています。今年度はそれぞれの地区で縮小した運動になりました。また、今までよりも人数や回数を制限して、子供達の登下校時の見守りや、犯罪防止への広報活動は継続して行っています。多摩少年院、更生保護施設「紫翠苑」「くにたち安立」などへの援助も前年度と同様に行いました。

この度の感染症、また自然災害が多発している中、更女活動について、いろいろ考えさせられました。しかし一番大切なのは命です。これからも会員皆様と共に話し合い、より良い活動ができます様にして行きたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻よろしくお願ひ致します。

### 日野分区

#### 分区長 志田千代子

コロナ禍で、全ての活動が中止になり残念です。

会員とは行事ごとに集まり、近況報告など口も手も動かして楽しく準備します。

##### ○社会を明るくする運動

タオルでペンギンのホゴちゃんを作り、街頭で手渡しして笑顔を頂いてます。

##### ○手をつなごう子どもまつり

参加の子供達に折紙の傘作りを教えます。

##### ○里親関連展示会

会員数名と見学、受け入れた後の苦労や悩み等をスライド、写真を拝見しました。

里親・里子だからではなく、子育ては苦労

がある。全ての子が家庭の愛情の中で育つ事を願っている。

(印象に残った言葉です)

##### ○幼稚園の朝の見守り

コロナ禍以前は、おはよう！ハイタッチ!!今は、おはようとお互いに手を振るだけになりました。4月からマスク無しの元気な1年生になることを願っています。



### 多摩分区

#### 分区長 野原 瑞子

令和2年度は、コロナ禍、緊急事態宣言が発令され、対応作業から始まりました。

前期活動は、社会を明るくする運動（グッズ作り等）、分区会が中止になる中、6月23日から26日迄、関戸公民館ギャラリーで開催された「ともフェス」パネル展示に、理事の方々で、社明ポスターなど使って2枚作成・展示致しました。



後期は9月分区会開催、新入会員含む21人が参加、皆様と久々にお会い出来、コロナ禍の自粛生活情報交換会となりました。  
12月分区会（オー

クション）開催、コロナウイルス感染拡大で危ぶまれましたが、出来る限りの感染予防対策をし（バザー形式に変更）22名の参加者で、1時間ほどの短い時間でしたが、楽しい一時を過ごしました。お互いの健康を労い、1日も早いコロナの終息を願い散会致しました。売り上げの一部を更生保護施設（紫翠苑・くにたち安立）二か所に寄付することが出来ました。令和3年1月新年会（分区会）は中止、3月分区会は開催予定です。

関係機関と例年通りの連携活動が出来ませんでしたが、会員の皆様には、夏・冬「島原素麺・うどん」の購入協力を頂きました。

次年度には何時もの活動に戻れることを願うばかりです。

## 稻城分区

分区長 井上美代子

今年度は、新型コロナウイルスにより、多くのイベントが中止となっている状況です。私たちの事業においても、不安と隣り合わせの中で、思うように活動ができません。しかし、小学校、中学校「ユニセフ・クリーン大作戦」等を行っています。

青パトでは、市内全域の防犯パトロールを行っています。自転車の飛び出し、信号の確認、空き巣に注意(戸締り)、詐欺に注意、熱中症注意(水分補給)、新型コロナウイルス注意(マスク・手洗い・うがい等)を呼び掛けています。これからも犯罪のない安



## 情報 BOX

## 日野・多摩・稲城地区管内の動向

東京保護観察所立川支部 主任保護観察官 竹内 桃代

令和2年版犯罪白書によれば、仮釈放者及び保護観察付執行猶予者の令和元年の保護観察人員は、仮釈放者(全部実刑者)は1万442人、保護観察付全部執行猶予者は2,248人で前年より減少しています(前年比7.7%減、同9.4%減)。一方、仮釈放者(一部猶予者)は1,198人、保護観察付一部執行猶予者は1,419人で前年より大きく上回っています(同20.8%増、同45.7%増)。全部執行猶予者の保護観察率は、平成25年以降10.0%が続きましたが、28年以降低下し、令和元年には7.2%と前年より0.6pt低下しています。

令和元年末の保護観察対象者の人員は、仮釈放者(全部実刑者)が4,128人(前年末比6.6%減)、仮釈放者(一部執行猶予者)が362人(同16.0%増)、保護観察付全部執行猶予者が7,969人(同9.0%減)、保護観察付一部執行猶予者が2,150人(同87.6%増)です。

少年の令和元年保護観察開始人員については、保護観察処分少年が1万1,823人(前年比8.7%減)で平成11年以降減少し続け、少年院仮退院者は2,053人(同4.3%減)であり、こちらも平成15年以降減少傾向にあります。立川管内でも事件数は年々減少しており、令和2年末の保護観察係属事件数は810人(交通短期保護観察を除く)であり、前年比1.8%、件数にして15件減少しています。

右表は令和2年末の立川管内及び日野・多摩・稲城地区の係属事件数と令和2年1月1日から12月31日までの受理件数です。

全て安心できる街づくりを目指してまいります。

「ユニセフ・クリーン大作戦」は、毎年稲城市立第四中学校の生徒さんが世界中の恵まれない子どもに対する取り組みとして、自主的に始めた資源回収と募金活動です。多摩川のごみ拾い、街路樹の落ち葉掃き等の地域清掃や、段ボール・古新聞・古紙の回収も地域の団体の協力を得て活動しています。私たち更衣も楽しみながら関わっています。

その他といたしましては、各学校が6ブロックに分かれた地域教育懇談会に参加をして、各団体との情報共有や意見交換などを行い交流を深めております。

今後も新型コロナウイルスが終息したら、積極的に地域と関わっていきたいと思います。

地区全体の係属件数は微減でほぼ横ばいですが、受理件数は前年より22件減少しています。稲城分区は前年に比べて、係属・受理件数ともに少年事件が増加していますが、反対に成人事件は減少しており、前年とは少年と成人の比率が逆転していることが分かります。

生活環境調整事件(更生保護施設分を除く)の係属件数については、立川管内全体では27件減少しています。地区全体では前年と同数となっていますが、日野分区が前年より5件増加しています。

今後とも保護司の皆様と協働して、犯罪予防活動及び対象者の改善更生に尽力したい所存ですので、どうぞよろしくお願いします。

## 保護観察事件数 令和2年12月31日の係属事件数

	1号	2号	3号		4号		合計
			全部実刑	一部猶予	全部猶予	一部猶予	
立川管内	353	71	104	8	202	72	810
日 野	16	1	1	0	9	2	29
多 摩	16	2	1	0	5	0	24
稲 城	11	0	1	0	4	1	17
全 体	43	3	3	0	18	3	70

(交通短期分を除く)

## 令和2年1月1日から同年12月31日までの受理件数

	1号	2号	3号	4号	合計
立川管内	279	60	308	115	762
日 野	8	1	6	2	17
多 摩	8	2	7	1	18
稲 城	13	0	3	0	16
全 体	29	3	16	3	51

## 生活環境調整事件数 令和2年12月31日の係属事件数

	刑事施設	少年院	合計
立川管内	621	54	675
日 野	28	2	30
多 摩	23	0	23
稲 城	8	0	8
全 体	59	2	61

(更生保護施設分を除く)

## 退任のご挨拶

日野分区 小池 勝造

保護司を拝命して16年、昨年12月に満期退任となりました。その間嬉しかったこと、辛かったこと等いろいろな出来事が浮かんできますが、改めて振り返ってみますと全てが貴重な経験として、心に残っています。

私はかねてより、地域・社会のために役に立ちたいと考えていたので、今は保護司の任務を全うして「ホッと」しています。これも一重に皆様のご理解とご協力の賜物と、感謝しております。

今後は桐友会員として、お会い出来ることを楽しみにしています。新型コロナウイルスの終息が見えない中、健康には十分注意してお励み下さい。長い間、大変お世話になりました。

永い間お疲れ様でした

稲城分区 横田 定利

2002年12月から2020年12月までの18年間、保護司として活動致しました。その間、対象者も様々で何度も対応の仕方に苦慮し、続けていくことを悩みましたが、先輩保護司の助言と対象者からの感謝の言葉に支えられ、今日まで務める事ができました。在任中は、多くの皆様よりご指導、ご鞭撻を賜り誠にありがとうございました。当保護司会の更なる発展を祈念いたしまして退任の挨拶とさせていただきます。



## 新任のご挨拶 ご活躍を期待します 令和2年12月22日委嘱



多摩分区 大塚 美千代 (広報部)

この度、保護司になって改めて人と人との信頼関係が何より大切なことだと感じています。私は子育て時代にPTA活動を通し、保護者やたくさんの子どもたちと出会い、様々な活動をする中で多くのことを学びました。人を見かけだけで判断せず、内面を知ることでより信頼し合えることや年齢、性別など自分とは違う生活環境で生きていても相手の話をしっかりと聞き、受け止めることでわかり合えることなど、私の今までの経験がやっと役に立つ時が来たと感じています。人は一人一人違った個性がありいろいろな考え方を持っていて、それを認め尊重し共感していくことも大切だと思っています。私に何ができるのかまだわかりませんが、今のこの気持ちを忘れずに思いやりを持って務めていこうと思います。



稲城分区 根岸 瑞代 (研修部)

私は、青少年育成委員などの地区ボランティアを通じて保護司の方々ともご一緒させていただいておりました。とても遠い存在の活動をしている方々なのだと感じてでしたが、私がお役に立てるのか不安ではあります。しかし皆様のお力をかりしながら成長していくなら嬉しいです。

パトロール活動では声をかける子どもたちが減ってきてることを感じます。保護司の活動はまた違ったものではあると思いますが活動が少ないことを願います。

日野、多摩、稲城と耳にすると中学校時代にスポーツでお世話になった地域だと懐かしく、この地域でお力になれることを幸せに感じております。稲城分区の方々にもお会いできずにいる状況の中、どうぞよろしくお願ひいたします。

### 表紙写真の説明 ー学校今昔ー

稲城中学校は昭和22年に開校され、当初は稲城一小の一部を仮校舎として誕生した。当時の生徒数は296名。

写真の木造校舎は昭和23年9月に現在の地、旧高等小学校跡に完成した校舎（10教室）で、翌昭和24年1月に、旧火工廠本館の校舎から一部生徒を受け入れて授業が始まった。

以後、昭和47年稲城第二中学校が開校するまで市内唯一の中学校として古い歴史と伝統を誇る学校である。

（写真提供：稲城市役所 昭和30年（1955年）撮影）

### 編集後記

～3.11を忘れない～ 2011年3月東日本を襲った大地震、大津波、これに伴う福島第一原子力発電所の事故による未曾有の大災害を引き起こした東日本大震災から10年の月日が過ぎました。ひとくくりに語ることはできない10年、復興のスピードも心の内も、人それぞれであり千差万別だと思います。その年月に寄り添い続けた復興支援ソング「花は咲く」の歌声を聞く時、当時の記憶と共に、これからもその歌詞の「思い」が永遠に続くことを心から祈りたいと思います。

#### ■サポートセンター百草台

〒191-0033 日野市百草999番地  
電話 042-593-0950 FAX 042-506-5474  
メールアドレス：vpocentormog@true.ocn.ne.jp